

平成二十七年年度 第4回山上憶良短歌賞受賞作品一覧

(敬称略)

小学生の部

憶良賞 朝顔とかたつむりみたいなホルン吹くボクの姉さん吹奏楽部
入選 おいちゃんまだまだ元気な六十二歳さんとダンスをほこぶ
入選 暮参り山鳩に乗りやうて来るお先祖様とダンスをおどる
入選 かぞくてねしりとりにしたよおばあちゃんがおみかんごといておわつたんだよ
入選 たん生曰「わしゃ96と」わらわせる元気いっぱい100才のおじいちゃん
入選 お母さんカレーのルーをまぜながらおいしくなあれひとりごと
佳作 おとうさんのせなかのつぎまようりゅうごうきろソウルスてきをたおすぞ
佳作 しよきあらいほめてほしいなかあさんにでも水がこぼれておこられちゃった
佳作 おばあちゃん梨の小袋かけているみんな真似して後から続く
佳作 友だちのえがおをつくるケーキだよ母のつくいは、シフォンケーキ
佳作 家族みな毎日毎日のぞいているワクワドキドキ新しい家
佳作 毎日がうるさい日々の桑原家いつまでもたつても私の居場所
佳作 七五三同じはお前の三人目聖神社でおがんでもう
佳作 おじいちゃんいつもやさしくしてくれて何かねだると母さんならむ
佳作 お父さんたばこをすってけむりであるけむりもくもくけむりぐも
佳作 ランドセルおねえちゃんでもてるのにお父さん重いと云うのはふしぎ

中学生の部

憶良賞 夜8時祖父から電話がかかってくるのでたがいの安否確認
入選 妹の手から逃げてく赤りんご初挑戦のりんごの皮むき
入選 父さんがつくってくれ毛ツ煮込みみよと濃いめが父さんの味
入選 チャンネルを変えて変えられ父さんとケンカもテレビも母に消される
入選 アルバムをめくって気づくたくさんの笑顔の中で育った私
入選 朝起きて目にもうつりは茶色い毛ツヨみたいたい犬が見つめる
佳作 おじいちゃんそれアじゃなくてすまたよお酒ほどほど長生きしてね
佳作 部屋の外もれる光に母の姿背番号ぬう試合の前日
佳作 お母さんテスト終わるといつも言つよく頑張った次に生かせと
佳作 寝顔見て部屋出る父のその背中ほんとと起きてる私に気付かず
佳作 「親嫌い」とか言いながら出ていって悲しいさじむ秋の夕暮れ
佳作 北海道連れていこうと祖父が言う寿司屋と気づかず盛り上がる母
佳作 家族つてあなたにとつとどんな人話の相手それとも居場所？
佳作 置き手紙夜までがんばる父のためのおつかい様と声かけたく
佳作 最後「一度会いたかったなひいばあちゃん今日のお空は青ぞらですよ」
佳作 「おはよう」とふだんは言わぬほくほくどいおうときめた母の日の朝
佳作 変わらない料理の味もかこいも私の母はただ一人だけ
佳作 八月は故郷の青森夏祭り家族総手でねぶた引張る

高校生

憶良賞 十六の年が過ぎさりふと思う母の寝顔を見たことあるか
入選 いつ覚えたの？「迎えてきて」と言う僕にJKみたいになりよ」と返す母
入選 幼き日我が手を引いた祖母の手を握る葉月の白き病床
入選 「お疲れ」と父と交わした帰りの道小さな世界大きな夜空
入選 居間にある微かな煙草の残り香は月に一度の父の名残か
入選 母の日にプレゼントしたエプロンはもったいないと未だ使わず
佳作 一つのまに小さくなった父の背に僕は大きくなったのだからうか
佳作 遺伝だな私の顔と父の顔たまにこぼれるギャグのセンスも
佳作 一つのまに見おろしている母の顔毎日見るのもあと一年
佳作 母上よ死ぬ死ぬ詐欺はもう飽きたどうかそろそろ生きると言え
佳作 朝早く自分の愛車みがく父僕も負けじと愛車をみがく
佳作 電車たち駅につとえば家族だが基地に戻れば大家族だよ
佳作 うたた寝をするなどやけにうさぎが広告枕にうたた寝する母
佳作 雨降ると聞こえてくるよみずたたり幼い時の弟の声
佳作 初メール件名欄に「書いてみた」本文の無い祖母からのメール
佳作 家中の総出で働きこぼうびは稲かり後の炊こみご飯

一般の部

憶良賞 空っぽの弁当箱が置いてある 子は忘れたか今朝の口論
入選 針はこぶ母の手冬は白かりき藍のつむぎに風とほしをり
入選 鳴く雉に二声応える難聴の夫に夕への日差し明るむ
入選 わたしのことわたしより解かる人となて年越し蕎麦の熱きを啜る
入選 「スモスのあふれる庭の窓ちかく午睡の夫はやにやせたり
入選 「おばあちゃん」お母さん「おい」と呼ばれぬ夕餉に作る芋の天ぷら
佳作 夫々が好む三種の玻璃グラスビールに充たし「カチッ」と夕餉
佳作 改憲の世に抗いし弟よ孫・娘を置きて今朝逝きにけり
佳作 大根を洗ふ幼の大雑把褒めつつ母はそつと手を添へ
佳作 百歳で逝きしあなたの新盆に咲き始めたリタマノカンザシ
佳作 父の読みし百人一首の読み札を孫が読みおりの抑揚で
佳作 明け方の冬の三角仰ぎつつ孫への荷作り新米入れて
佳作 遠慮して最期は家と言えぬまま父は祭り見て病院へ戻る
佳作 食卓のまんぐるじゅうにおさなごの写真見ている孤食にあらず
佳作 実るもの数限りなく秋はゆくおはぎいと煮故人も家族
佳作 さつま芋を揚げている横から「お、あ、じ、み」と子の手が伸びる「ハフハフアチ」

※佳作は順不同

用瀬小五年生 池永 光希
西郷小四年生 鯉口 悠生
船上小二年生 浅田 茉衣
赤崎小四年生 上田 敦生
船上小五年生 谷口 彩香
明倫小一年生 藤木 剛輝
明倫小一年生 藤田 敬紀
社小六年生 宇田川 花奈
羽合小四年生 足立 歩
羽合小六年生 赤崎 有咲
東郷小六年生 桑原 琉碧
明徳小五年生 富山 翔生
湖山小六年生 圓城寺 要
船上小三年生 田畑 大地
船上小四年生 前田 天星

倉吉東中二年生 山本 夢馬
河北中二年生 清水 香月
東伯中一年生 大田 舞
倉吉西中二年生 岡部 千紗
河北中三年生 岸田 花音
倉吉東中三年生 山口 そら
河北中一年生 朝倉 澄麗
河北中二年生 中本 大心
久米中二年生 森石 夢華
北条中三年生 山本 智子
三朝中三年生 高田 麻鈴
赤崎中二年生 河上 瑠美
河原中一年生 九鬼 悠里亜
東山中一年生 尚徳 中二 生
尚徳中二年生 瀬尾 俊貴
法勝寺中二年生 都田 月菜
鴨川中一年生 中田 玄香

鳥取東高二年生 西尾 彩香
倉吉北高一年生 種部 光星
鳥取東高二年生 上月 大樹
倉吉東高二年生 河野 たま樹
鳥取湖陵高三年生 細井 龍也
米子松蔭高二年生 徳田 真帆
倉吉東高二年生 進木 康汰
倉吉東高二年生 中島 彩
倉吉農業高二年生 吉田 早希
倉吉農業高二年生 吉田 允仁
倉吉農業高二年生 竹蔵 秀仁
琴の浦高等特別支援学校二年生 前田 啓斗
鳥取東高二年生 前橋 美穂
鳥取東高二年生 谷本 結
鳥取東高二年生 池上 玲央
倉吉北高一年生 毛利 薫平

東伯郡北栄町 桑田 のり代
境港市 安田 のりみ
倉吉市 坂本 佳子
境港市 佐々木 千代子
鳥取市 森本 坦子
鳥取市 石井 美早
倉吉市 長谷川 文子
倉吉市 足羽 敬子
倉吉市 中井 孝子
東伯郡三朝町 木島 良子
鳥取市 小谷 由美子
鳥取市 稲村 豊
鳥取市 中尾 恭治
八頭郡八頭町 三島 ミサヲ
西伯郡南部町 生田 延子